

相模原マンドリン倶楽部 第15回定期演奏会

15°
Concerto
Di Mandolino



1997年11月8日(土) P.M.2:00 開演

グリーンホール相模大野 大ホール

Program

【 I 部 】

指揮 / 宮本 皓永

英雄行進曲「イタリア」 A. Amadei

歌劇「セヴィリアの理髪師」序曲 G. Rossini
編曲：宮本 皓永

交響詩《わが祖国》より「モルダウ」 B. Smetana
編曲：宮本 皓永

【 II 部 】

指揮 / 小林 淳子

マンドリンオーケストラの為の「鶴翼之詩」 伊東 福雄
1. 夜明け（序曲）
2. 妄想（「竹」朗読付）
3. 眺望
4. 山に舞う（終曲）

ノクターン S. Copertini

組曲「中世の放浪学生」 A. Amadei
編曲：中野 二郎
1. 放浪
2. 愛のワルツ
3. 朝の調べ
4. 謝肉祭の行列

瞑想曲「夢の魅惑」 U. Bottacchiari

【 曲 目 解 説 】

英雄行進曲「イタリア」

Amedeo Amadei (1866~1935)

彼の作品の音楽的特徴は、マンドリンの表現能力を最大限に生かし、芸術的な表現を成しえていることでしょう。また、JMU本部顧問の高野吉司氏は「マネンテ、ファルボと並んで、従来のプレクトラム音楽の域を超えて独自の世界を築いた功績と遺産は、現代の私たち愛好者をしても虚心に耳を傾けるべき魅力に溢れている。」と述べています。

この「イタリア」は、トリオをもつ3部形式の勇壮な行進曲で、マンドリンの3度、また8度の分割によって旋律が独特な色調をもちつつ、雄大に展開されていきます。

1912年の作、アマディ前期の作風を知る上でも重要な作品と言われています。

歌劇「セヴィリアの理髪師」序曲

Gioacchino Rossini (1792~1868)

ロッシーニはイタリアのペーザロで生まれ、12歳で作曲を学び、18歳でオペラを作曲しています。23歳から20年間になんと38曲も書いたそうです。その作曲技巧のたくみさと本能的な鋭い感覚、そして飽くことのない好奇心を発揮してオペラ界で名声を得るなか、イタリアオペラ界はヴェルディへと引き継がれていきます。主な作品としては「婚約手形」「絹のはしご」「オテロ」「ウィリアム・テル」等があります。

このオペラは1816年の作、1ヶ月余りで書き上げました。また、あのモーツァルトの名作「フィガロの結婚」の姉妹作として有名です。結婚する前の理髪師フィガロが題材ですが、モーツァルトは1786年、ロッシーニは1816年の作曲であり、物語とは順序が逆になっています。共に原作はパリの風刺劇作家ボーマルシェ、登場人物も同じで、「理髪師」は1755年、「結婚」は1781年に発表されました。美しい娘のロジーナをめぐる医者と伯爵が恋の駆け引き。理髪師フィガロが一役買って… という典型的な喜歌劇です。

さらに、この「序曲」は、初演の際に楽譜が紛失したとも、曲が間に合わなかったともいわれ、他の歌劇の序曲で急場をしのいだとのことでした。しかし、これがまた名作の為に、以後もそのまま序曲として使われているのです。

交響詩《わが祖国》より「モルダウ」

Bedrich Smetana (1824~1884)

ボヘミア（チェコ）はその昔、他国の支配下にあり、母国語を話す自由も奪われていました。民族独立運動の気運が高まる中、スメタナは積極的にこの活動に参加しています。同じチェコの作曲家ドヴォルザークは、政治への関心が薄く音楽一本やりでしたが、スメタナは常に社会と政治への意識、そして熱い祖国愛を持っていたのです。

50歳の働き盛り、彼は全く耳が聞こえなくなっていました。しかし、祖国への愛と燃えるような情熱を傾けて、不自由な耳で交響詩《わが祖国》を書き上げました。

交響詩《わが祖国》は、「ヴィシェフラド」「ヴルタヴァ」「シャールカ」「ボヘミアの森と草原から」「ターボル」「プラーニク」の全6曲からなっています。

ボヘミア、現在のチェコの母なる川、ヴルタヴァ（ドイツ名でモルダウ）は南ボヘミアから流れ出て北に向かい、エルベ川に合流する川です。この川に寄せて、彼は国土と人民への賛歌とした「交響詩《わが祖国》」の第2曲目としてこの曲を作りました。作者自身がこの曲に解説をつけていますので、以下にその一部を引用します。

この作品はヴルタヴァの流れを描写している。それは冷・暖ふたつあるヴルタヴァの源流に耳をそばだてその合流地点を辿る。広い草原と森を抜け、楽しい祭りのそばを通り、その流れを追って行くと銀色の月光のもとに水の精が輪舞を舞っている。いかめしく変形した岩場を通り過ぎ、聖ヨハネの急流では泡立ち渦巻く。やがて川幅は広がりプラハに流れ込むとヴィシェフラドの城が岸边にその姿を現す。さらに激しく流れ、やがて見えなくなつてエルベに注ぎ込む。

[文責・宮本皓永]



マンドリンオーケストラの為の「鶴翼之詩」

伊東 福雄(1947～)

伊東福雄は、東京に生まれギタリストとして演奏・指導を中心に多方面で全国的に活躍する一方、自作品も数多く発表しているマルチ音楽家です。

主な作品にギターソロ「雪山賛歌変奏曲」、ギター合奏「今日物語」、マンドリン合奏「関北の都」「鶴翼之詩」等があり、また、歌曲や他の楽器とギターとの重奏曲も多くあります。

この「鶴翼之詩」(かくよくのうた)は、'92年萩原朔太郎没後50年記念公演として、両角文則群馬マンドリン楽団より委嘱、前橋で初演されました。

題名は上州カルタにある「鶴舞う姿の群馬県」をヒントに名付けられました。4楽章より成り、各々、第1楽章〈夜明け〉関東平野中央部にある県南の広々としたイメージ、第2楽章〈竹〉前橋に育った萩原朔太郎の詩「竹」の朗読付き音楽、第3楽章〈眺望〉榛名山からの雄大な眺め、第4楽章〈山に舞う〉草津等の深い谷間に荒れ狂う吹雪、となっています。

元群馬交響楽団コントラバス奏者、佐々木正治氏のコメントの一部を紹介させていただきます。『伊東さんの作品を幾度となく演奏したり二重奏したこともありますが、伊東さんは音を楽しませる素晴らしい才能を持った音楽家です。私も40年間のオーケストラ生活を送りましたが、この様な人は何人も居りません。まだ若いので、今後も多くの楽しい演奏、楽しい作品が出来ることを期待しています。この「鶴翼之詩」は、(いつだったろう…、どこだったろう…、遠い昔…、いや最近聞いたような誰の心にも伝わる自然な音楽)といった印象で、しかも群馬県人の私から見ても上州の気質をよく表した作品です。伊東さんの他の作品と同じく、伊東さんの人間味そのままを表した素晴らしい音楽でもあります。』

ノクターン (Notturmo)

S・Copertini(不詳)

コペルティニはイタリア、フィレンツェのケルビーニ音楽学校の教師をしていたようですが、1926年に発表されたこの作品以外あまり知られておりません。静けさの中にパッションを秘めた、美しい小品です。

組曲「中世の放浪学生」

Amedeo Amadei(1866～1935)

アマディ家は三代続いたイタリアの著名な音楽一家です。アマディオは始め父ロベルトに学び、その後ポーニアのアカデミア・フィルモニカでピアノ、オルガン、合唱指揮を修め、40もの作曲コンクールに入賞しています。

作品は管弦楽曲、吹奏楽曲、合唱曲、歌曲、ピアノ曲と多岐にわたり、約500曲もの作品を残しています。その内、マンドリン曲は90曲以上あり、「海の組曲」「北欧のスケッチ」など広く親しまれています。

瞑想曲「夢の魅惑」

Ugo Bottacchiarri(1879～1944)

イタリア、マチェラータ地方に生まれたボッタキアリは、幼い頃から音楽に非常に強い興味を持ち、両親に買い与えられたマンドリンを巧みに弾きこなしていました。13歳で職業訓練校に入り、会計士などの勉強をしましたが、やはり音楽を捨て切れず、18歳の時、ロッシニ音楽院に入学しました。ここでマスカーニに熱心な作曲法の指導を受け、オペラ「影」を発表します。以後、多くの交響曲、室内楽曲、声楽曲を作曲し、各種の音楽祭で入賞しました。

また、イタリア北部の町、コモにあった「フローラ・マンドリン合奏団」の指揮を務めるかわら、いくつかのマンドリン合奏曲を残しました。中でも「交響的前奏曲」は、日本でもよく演奏されますが、他にも「イル・ボート」「夢うつつ」などロマン的な色濃い抒情的な美しい曲を数多く作曲しています。

この「夢の魅惑」は彼の死の4年前61歳頃の作品。恐らく最後の大作であり、1941年にイタリア・シエナで開催された作曲コンクールで第1位を獲得しました。コンクール審査委員会は「形式、楽想、和声そして楽器の可能性の極限までの追求、全ての点において実り豊かな成果をあげている」と絶賛しました。

[文責・小林淳子]

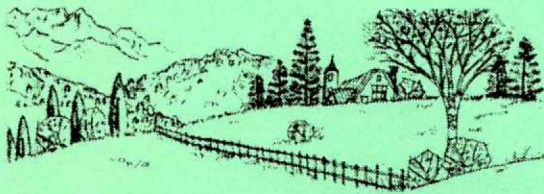
ごあいさつ

本日はお忙しい中、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。私たち相模原マンドリン倶楽部が、数名の同好者の集まりとして産声をあげたのが1975年、そして1977年3月に第1回の定期演奏会を開いています。ある時期は部員数も減少し「これで演奏会ができるのだろうか」という時代を経て、ここに第15回目を迎えることができました。それも本日ご来場の皆さま初め、大勢の仲間の支援があったればこそと心よりお礼を申し上げます。

当倶楽部は、定期演奏会の他、関東マンドリン・フェスティバル、神奈川マンドリン・フェスティバル、その他各所での訪問演奏等々、様々な活動をしております。本日はそれらの経験を生かした演奏をと心がけております。

和音は、楽曲の中では隣同士と仲良く信頼しあい、侵しも、侵されもせず、その個性を發揮して自己主張しています。私たちも、それを教訓として音楽を真面目に楽しみながら信頼と調和を心がけて行きます。そして、いつまでも皆さまに親しんでいただけるマンドリンオーケストラでいられるよう、これからも努力を続けてまいります。

相模原マンドリン倶楽部部長 宮本 皓永



♪♪♪ 今回定出演者 50名 プロフィール ♪♪♪

☆性別	男性：16	女性：34	(夫婦参加 3組)	
☆年齢	20代：2	30代：4	40代：21	
	50代：21	60代：2		
☆しごと	主婦：29	会社員：15	公務員：4	自営：1
	その他：1			
☆クラブ在籍	19～15年間：6	11～9年間：8	5～1年：22	1年未満：14
☆出身地	関東：23	近畿：9	東海：8	九州：3
	信越：2	中国：2	北海道・東北・四国：各1	
☆すまい	相模原市：8	川崎市：8	厚木市：6	横浜市：6
	町田市：6	座間市：3	愛甲郡：2	八王子市：2
	杉並区・津久井郡・栃木県足利市・稲城市・海老名市・江戸川区・伊勢原市・立川市・小田原市：各1			

- ・演奏面も運営面も組織的に取りかかり、皆でつくるクラブです。
- ・練習熱心です。天候に関係なく、暑サ寒サニモ負ケズ… 練習に出席します。一説にこれを「倶楽部病」とも。練習は原則月3回、土日です。
- ・ブレイクタイムはお茶とお菓子でパワーアップ。優しくつよく明るい女性のアイデアから設けられた10分間です。
- ・一定した練習室がないため、部員は日々予定表を見て相模原市内とその近郊の練習場所を移動します。場所確保のプロジェクトチームがあります。
- ・団塊の世代を中心に、大人の演奏を目指すのが理想です。

部員募集中 (演奏経験者) b b b

連絡先 飯田正男

宮本皓永

出 演 者

Conductor	小林 淳子	宮本 皓永					
1st Mandolin	窪田 成子	石井 順	大矢 利夫	金澤 葉子	川崎 紘子		
	仁尾 真里	野沢 孝広	濱地すぎの	木田 絹子	山崎 了三		
	渡辺 礼子						
2nd Mandolin	福谷 隆治	藍澤 桃子	饗庭 裕子	綾部 文子	池田百合子		
	石本 友子	小寺 純子	笛木 和美	舟田 徳穂	古田 栄治		
	本田 博子						
Mandola Tenore	寺田美千代	安藤 恵子	井上 昌子	佐藤 至	清水 哲夫		
	戸田 節子	長澤 直子	峯田 福代	宮下 和子			
Mandolon Cello	飯田 正男	新井 恭子	安藤 安臣	市川久美子	小林 淳子		
Mandolone	宮本 皓永						
Guitar	宮本 紀子	池上 由子	石本 久博	加登 文子	田中 厚子		
	長沢 久美	新田美佐子	野呂せつ子	原田 治	森川 史子		
	柳生 秀人						
Contra Bass	金澤 慶了	鈴木 保彦					
Piano	金澤 葉子						
Percussion	金子 真菜 (賛助)		長崎 央子 (賛助)				
詩 朗読	原田 治						
司 会	山田 早恵 (賛助)						

ステージ・マネージャー 西原 正 (賛助)
 印刷 (有) 長谷印刷 (厚木市)

《 あゆみ 》

1975年4月に県立相模原青少年会館のマンドリン教室として発足し、1977年3月に相模原マンドリン倶楽部として第1回定期演奏会を開催しました。現在はマンドリンオリジナルとクラシックアレンジを中心に幅広い曲目を演奏しています。90年代に入って部員数の増加は著しく、近年では相模原市を拠点とした活動に加えて県内外でも演奏活動を行っています。

《 活動レポート 》

- 1996年 9月21日 (土) 第14回定期演奏会 (川崎市麻生文化センター)
- 11月9日 (土) 青少年会館まつり (相模原市県立青少年会館)
- 11月27日 (水) 一人暮らし高齢者のための会食交流会 (相模原市上鶴間公民館)
- 11月30日 (土) 鶴川第4小学校母子ふれあいコンサート (町田市鶴川市民会館)
- 12月5日 (木) 一人暮らし高齢者のための会食交流会 (相模原市大野南公民館)
- 1997年 4月20日 (日) 神奈川マンドリン・フェスティバル (横浜市栄区栄公会堂)
- 6月14日 (土) 第7回部内発表会 (相模原市麻溝公民館)
- 10月25日 (土) 第15回定期演奏会に向けて合宿 (八王子市大学セミナーハウス)
- ~ 26日 (日)

表紙ペーパー画: M. Pincherle 著「音楽の歴史」より「リュート弾き」(部分)